

教 高 第 488 号
静 英 研 第 14 号
令和 3 年 9 月 21 日

各公立高等学校長 様
各私立高等学校長

静岡県教育委員会高校教育課
課 長 本 多 伸 治
静岡県高等学校教育研究会
会 長 長 井 利 樹
(静岡県立浜松北高等学校長)
静岡県高等学校英語教育研究会
会 長 高 橋 健 二
(静岡県立御殿場南高等学校長)

第16回全国高校生英語ディベート大会静岡県大会について

日頃は静岡県高等学校英語教育研究会の活動に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、同研究会では、静岡県教育委員会との共催事業「英語ディベート学習」の一貫として表題の大会を、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で、下記のとおり開催することといたしました。

つきましては、関係の職員及び生徒に対し、本大会について御周知いただくとともに、本大会への参加について御推奨くださいますよう、お願いいたします。

なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン開催に切り替えることもございますが、何卒ご了承ください。

記

- 1 日 時 令和 3 年 10 月 30 日 (土) 午前 9 時から午後 4 時 50 分まで
(受付開始 午前 8 時 40 分)
- 2 場 所 静岡県総合教育センター
掛川市富部 456 番地 電話: 0537-24-9700 (代表)
- 3 論 題
Resolved: That the Japanese Government should relocate the capital functions out of Tokyo.
日本政府は、首都機能を東京の外に移転すべきである。
- 4 後 援 ベネッセ・コーポレーション
- 5 参加条件
(1) 本大会に参加できるのは、静岡県内の高等学校に在籍している生徒又は

高等専門学校第3学年までに在籍している生徒である。

- (2) 1校2チームまでの参加とする。1チームは4人で編成することを基本とし、6人まで登録できる。
- (3) 次に示す海外生活経験者等の条件に該当する者は、1チームに2人まで登録できるが、試合に参加できるのは1人とする。なお、英語のネイティブ・スピーカーは参加できない。
 - ア 英語を第1言語とする国に12ヶ月以上滞在した経験のある生徒（就学前の滞在は不問）
 - イ 英語を第2言語とする国の出身である生徒（就学前の滞在は不問）
 - ウ 家庭で常用的に英語を使っている生徒
- (4) 参加校は、ジャッジ1名の帯同を原則として義務付ける。ただし、新規参加校については、当面この義務は免除される。帯同ジャッジは、教諭・講師・ALT・再任用教師・その他出場校が認めている外部指導者等とし、必ずしも出場校の関係者である必要はない。
帯同ジャッジは、10月24日(日)に行われるジャッジ研修会への参加を必須とする。

6 競技方法

- (1) 試合フォーマット及び規則については、別添1「全国高校生英語ディベート大会試合フォーマット」に記載のとおりとする。また、論題の定義や取扱は、一般社団法人全国高校生英語ディベート連盟 (HENDA) のホームページ(<http://henda.global/>)に掲載される最新情報に則って行う。なお、9月21日現在の最新版は別添2「henda topic tentative 20210303」である。
- (2) 4試合を行い、以下の方法に従い順位を決する。なお、2試合目以降はパワーペアリングを原則とする。
 - ア 1試合につき2名のジャッジが、それぞれ勝ちチームに1票を投じるとともに、それぞれ双方のチームにコミュニケーション・ポイントを付与する。
 - イ 各チームが獲得した票数及びコミュニケーション・ポイントの合計を算出する。
 - ウ 以下の手順により、上位となるチームを決定する。
 - 第一段階 得票数：得票数が多いチームを上位とする。
 - 第二段階 直接対戦の結果：その試合の勝者を上位とする。引き分けの場合は、その試合で獲得したコミュニケーション・ポイントが高いチームを上位とする。
 - 第三段階 レーティング：大会中に対戦した相手チームが持つ得票数を合計した数の大きいチームを上位とする。
 - 第四段階 コミュニケーション・ポイント：獲得したコミュニケーション・ポイントが多いチームを上位とする。
 - 第五段階 決定戦：全国大会出場権獲得校決定に係る場合のみ、当該チーム同士による決定戦を行い、上記第二段階までの手順で勝者を決定する。
- (3) 優勝校は、令和3年12月18日、19日にオンラインで開催される全国大会への出場権を獲得する。県大会に11校以上が参加した場合は、準優勝校も全国大会出場権を獲得できる。

7 当日のタイムテーブル

- 9:00 開会式
- 9:20 第1試合開始
- 10:55 第2試合開始
- 13:00 第3試合開始
- 14:35 第4試合開始
- 16:00 閉会式

8 留意事項

- (1) 競技におけるスピーチが「伝わりやすい」ものとなるよう、声量、話すスピードに気を配り、抑揚や緩急をつけるとともに、適切な間を取ることに。
- (2) スピードについては、平均して1分あたり150語を超えないこと。したがって、Constructive Speech（4分間）は600語程度を目安とすること。
- (3) ジャッジには、スピーチの内容を聴き取れなかった場合でも、その旨を伝える義務はないこと。
※ジャッジは、ディベーターによるスピーチのスピードが速すぎたり、発音が不明瞭で聞き取れなかったりした場合、片手を肩の近くに上げ、手を広げて手のひらを下に向け、そのまま片手を上下に振る、等の手のジェスチャーを用いて伝えることができる、とされている。しかしながら、これらのジェスチャーは、あくまでジャッジの厚意によって行われることであるため、このジェスチャーが行われなかったことを根拠に、ジャッジがスピーチを聴き取れている、と解釈してはならない。
- (4) スピーチで言及する数値（統計など）は、ジャッジがメモを取りやすいよう、できる限り四捨五入して用いること。
※エビデンスの開示を求められた場合を想定し、小数点以下の正確な原本通りの数値は必ず手元に用意しておく。
- (5) ジャッジに対し、試合後にいかなるクレームも申し立てないこと。
※事務運営上の明確な瑕疵等が認められない限り、判定は覆らない。

9 申込方法

参加希望団体は、10月8日(金)までに、参加チーム数、参加選手氏名、帯同ジャッジ氏名等を下記Googleフォームに入力する。

<https://forms.gle/8XBSsvhEVMvy6Qnm9>

10 その他

選手及び支援員・見学生徒を含め各学校から参加する生徒全員について、別添3「参加同意書」を、大会当日の受付時に学校ごとにまとめて提出する。

担 当 ディベート大会実施委員会
 委員 林 慈 子
 (静岡県立清水東高等学校教諭)
電 話 0 5 4 - 3 6 6 - 7 0 3
F A X 0 5 4 - 3 6 6 - 7 6 8 5
 yoshiko02.hayashi@neg.edu.pref.shizuoka.jp

全国高校生英語ディベート大会 試合フォーマット

1 発言者の場所と発言の順番

A : 肯定側 A 1 ○ ○ N 1 N : 否定側
 A 2 ○ ○ N 2
 A 3 ○ ○ N 3
 A 4 ○ ○ N 4

発言者	役割と内容	時間
A1	①肯定側立論 (メリットを2点まで主張できる)	4分
	準備時間	1分
N4→A1	②否定側質疑 (否定側からの質問に、肯定側A1が答える)	2分
N1	③否定側立論 (デメリットを2点まで主張できる)	4分
	準備時間	1分
A4→N1	④肯定側質疑 (肯定側からの質問に、否定側N1が答える)	2分
	準備時間	2分
N2	⑤否定側アタック (肯定側の立論のみに対して)	3分
A3→N2	⑥そのアタックへの質問 (肯定側A3からの質問に否定側N2が答える)	2分
A2	⑦肯定側アタック (否定側の立論のみに対して)	3分
N3→A2	⑧そのアタックへの質問 (否定側N3からの質問に肯定側A2が答える)	2分
	準備時間	2分
A3	⑨肯定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	3分
N3	⑩否定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	3分
	準備時間	2分
A4	⑪肯定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	3分
N4	⑫否定側総括 (双方の議論を比較し総括する)	3分

2 実施規則

- (1) 肯定側が主張できる「現状改革により得られるメリット (利点 *advantage*)」は2点までとする。
- (2) 否定側が主張できる「現状改革により生じるデメリット (不利益 *disadvantage*)」は2点までとする。
- (3) 全国大会出場権の都道府県ごとの割当校数は、参加校数11校未満の都道府県は1位のみ「1校」、11校以上の都道府県は1位及び2位の「2校」となる。